視覚障害者への職業リハビリテーションの国際的動向
―WBUによる国際調査の紹介―

第13回世界の職業リハビリテーション研究会
事業主支援部門　伊藤　丈人

報告の目的

- 本報告では、WBU（World Blind Union）が実施した視覚障害者の就労状況に関する国際的質問紙調査の結果を紹介する。
- そのことにより視覚障害者の就労状況に関する国際的状況を把握することを目指す。
- 一部について日本国内での調査も参照し、両者の共通点や相違点についても言及する。

視覚障害について

- **視覚障害者**

　疾病や事故等により、視機能の障害（見えない、見えにくい等）がある人々

- **視覚障害の状況**

　全盲（完全に見えない）から、弱視（ロービジョン）、視野欠損、色覚異常などさまざま

　→就労場面では、「周囲に見え方を伝えること」が課題となる

- **サポート技術**

　視覚補助具（ルーペ、単眼鏡、拡大読書器）、パソコン関連（画面拡大ソフト、スクリーンリーダー、点字ディスプレイ）、白杖、音声付家電（タイマー、体温計、エアコンなど）

- **必要とされる訓練**

　歩行をはじめとする生活訓練、パソコン操作等のIT訓練

WBUの概要

- WBU（世界盲人連合: World Blind Union）1984年設立
  世界190の国と地域の視覚障害者団体が参加する、国際NGO

- 視覚障害者の権利を守るために活動。国連障害者権利条約、マラケシュ条約の締結に貢献、批准国拡大を後押し。

- ウェブサイト：https://worldblindunion.org/
  ※日本からは、日本盲人福祉委員会がWBU発足時より加盟。

調査の概要

- 各国の視覚障害者の就労状況を把握するため、国際的質問紙調査を実施した。
- 実施期間：2019年11月～2020年3月
- 質問紙は英語、フランス語、スペイン語で作成。
- 各国のWBU加盟団体を通じて、質問紙をデータで配布。回答入力済みのデータを、加盟団体を通じて回収した。
- 調査結果は、本年6月のWBU総会にて発表された
  （本スライドはその際公表された報告書に依拠している）。
- 報告書：Karen Wolffe, "World Blind Union Employment Survey Results"（2021）

回答の偏り

- 有効回答数：2428
- 回答は85ヵ国から寄せられたが、オーストラリア、カナダ、スペイン、アメリカの4ヵ国からの回答が74%を占め、これにドイツ、フランス、インド、香港、アルゼンチン、イギリス、アイルランド、スリランカの８つの国と地域を加えると、全体の91%を占める。

→そのため、紹介する調査結果は、英語圏を中心とする先進国の状況を主に表していることに留意したい

※言語的制約、デジタルデータへのアクセスの制約が、回答の偏りを生んだのではないかと、WBU報告書自身が指摘している。

■視力低下の時期①

Onset of Vision Loss	n	%
At birth	1339	56.5
Before 18	315	13.3
18-55	621	26.2
After 55	94	4.0
Total	2369	100

■視力低下の時期②

	Currently working		Short-term unemployed		Long-term unemployed	
Onset VI	Congenital <18 18-55 >55	788 (59.5) 189 (14.3) 320 (24.2) 28 (2.1)	Congenital <18 18-55 >55	169 (59.1) 27 (9.4) 75 (26.2) 15 (5.2)	Congenital <18 18-55 >55	295 (46.8) 69 (10.9) 223 (35.3) 44 (7.0)
		1325		286		631

■視力低下の時期③

- 先天性障害のある回答者が圧倒的に多い（56%）。

  ※こうした人が今回の調査により多く協力しているということ

- 先天性障害のある人や、18歳未満で視力低下を経験した人のカテゴリーで、在職者の割合が高い。

■視力低下の要因（疾病名等）①

Reported Vision Loss Causes	n	%
Retinal problems	566	26.41
Genetic/hereditary conditions	209	9.75
Congenital anomaly (unknown etiology)	163	7.61
Glaucoma	162	7.56
Retinopathy of prematurity	142	6.63
Optic nerve damage	115	5.37
Unknown	98	4.57
Illness – unspecified	86	4.01
Accident	83	3.87
Cataracts	70	3.27
Brain injury	58	2.71
Diabetes	57	2.66
Albinism	53	2.47
Myopia	47	2.19
２％未満のものは省略		
Total Responses	2143	100

■視力低下の要因（疾病名等）②（日本）

原因疾病	人数	%
網膜色素変性症	202	17.20%
緑内障	103	8.80%
視神経委縮	56	4.80%
糖尿病性網膜症	52	4.40%
黄斑変性症	30	2.60%
未熟児網膜症	25	2.10%
脳血管障害	22	1.90%
高度近視	9	0.80%
その他	260	22.10%
不明・無回答	415	35.30%
計	1,174	100%

出典：調査研究報告書 No.149

■視力低下の要因（疾病名等）③

- WBUの調査でも日本国内でも、網膜症（Retinal problems）は視力低下の要因の最上位を占めている。

- 日本国内では、緑内障や糖尿病網膜症など、加齢と相関して発症率が高まる疾病が視力低下要因の中で大きな割合を占めている。

- WBUの調査でも、緑内障（Glaucoma）や糖尿病（Diabetes）も要因として挙げられているが、その比率は日本より低い。

- WBU調査では、遺伝性疾患（Genetic/hereditary conditions）や、未熟児網膜症（Retinopathy of prematurity）といった先天性疾患が上位となっている。

※視力低下者の高年齢化という日本の特徴を再確認することができる。

■使用文字①

Preferred reading medium	n	%
Electronic	1367	60.0
Auditory	413	18.1
Tactile	199	8.7
Visual	280	12.3
Other	20	0.8
Total	2279	

■使用文字②

- 読書のあり方として、目で見る（Visual）や点字を触る（Tactile）よりも、データをパソコン上で処理する（Electronic）が圧倒的に多い。
- この背景には、パソコン＋スクリーンリーダーを組み合わせて働くことが一般化していることと、点字や録音の冊子を作るコストが影響していると考えられる。
- なお、「Auditory」とは録音図書を耳で聞くこと。

■居住地①

Residence	Total	Currently working	Short-term unemployed	Long-term unemployed
	n (%)	n (%)	n (%)	n (%)
City	1563 (67.1)	904 (69.5)	191 (68.0)	377 (61.2)
Town/Village	625 (25.7)	322 (24.8)	64 (22.8)	165 (26.8)
Farm/Rural	130 (5.4)	39 (3.0)	15 (5.3)	49 (8.0)
Other	12 (0.5)	36 (2.8)	11 (3.9)	25 (4.1)
Total responses	2330	1301	281	616

■居住地②

- 居住地については、2/3以上が都市部で生活していると回答

  ↑

  公共交通機関が整備されていることなどから、移動（通勤を含む）が容易であること
- オフィスワーカーが比較的多いこと（スライド20参照）が影響していると考えられる。

■最終学歴①

Educational Status	n	%
Less than HS	103	4.3
High school	421	17.6
Some college	289	12.1
Community college	223	9.3
University – undergraduate	641	26.4
Postgraduate studies	452	18.6
Other	263	10.8
Total	2392	100

■最終学歴②

- 高学歴者の多さが際立っており、大学院卒（Postgraduate studies）と、総合大学卒（University - undergraduate）を合わせると、45%になる。
- この背景には、今回のアンケートに協力した人のバイアス、主要４か国の高等教育機関での合理的配慮の徹底などが考えられる。

■職種①

Occupations	n (%)
Architecture and Engineering	7 (0.6)
Arts, Design, Entertainment, Sports, and Media	44 (3.8)
Building and Grounds Cleaning and Maintenance	61 (5.2)
Business and Financial Operations	10 (0.9)
Community and Social Services	70 (6.0)
Computer and Mathematical	115 (9.8)
Construction and Extraction	4 (0.3)
Education, Training, and Library	139 (11.9)
Farming, Fishing, and Forestry	5 (0.4)
Food Preparation and Serving Related	14 (1.2)
Healthcare Practitioners and Technical	30 (2.6)
Healthcare Support	65 (5.5)
Installation, Maintenance, and Repair	4 (0.3)

Occupations	n (%)
Legal	21 (1.8)
Life, Physical, and Social Science	17(1.5)
Management	208 (17.7)
Military Specific	0 (0.0)
Office and Administrative Support	204 (17.4)
Personal Care and Service	20 (1.7)
Production	13 (1.1)
Protective Service	4 (0.3)
Sales and Related	101 (8.6)
Transportation and Material Moving	6 (0.5)
Volunteer	10 (0.9)
Responses	1172

■職種②（日本）

職業分類別	平成２９年度に全ハローワークが紹介後就職した視覚障害者の職業分類別内訳（自所・他所紹介含む、障害開示・非開示含む）		
職業分類コード	名称		
15201	あん摩マッサージ指圧師	523	32.4%
76101	ビル・建物清掃員	118	7.3%
25701	総合事務員	102	6.3%
78201	工場労務作業員	65	4.0%
36101	施設介護員	54	3.3%
25797	事務補助員	46	2.8%
16201	老人福祉施設指導専門員	42	2.6%
78999	他に分類されないその他の運搬・清掃・包装等の職業	33	2.0%
15202	はり師	28	1.7%
39197	調理補助者	24	1.5%
25101	総務事務員	20	1.2%
15301	柔道整復師	19	1.2%
77101	製品包装作業員	19	1.2%
14401	理学療法士	18	1.1%
16202	障害者福祉施設指導専門員	17	1.1%
45301	施設警備員	14	0.9%
25999	他に分類されない一般事務の職業	13	0.8%

出典：調査研究報告書 No.149

■職種③

- WBUの調査では、経営・管理（Management）と、事務補助（Office and Administrative Support）の比率が高い。
  次いで、教育・司書関連（Education, Training, and Library）と、情報処理・プログラミング関連（Computer and Mathematical）が多い。

  →事務系職種を中心に、パソコンを駆使して作業を行う職種の比率が高いことが確認される。

- マッサージ業が視覚障害者の職域として確立されている日本の状況と異なり、医療・介護関連である「Healthcare Practitioners and Technical」と、「Healthcare Support」のカテゴリの比率は小さい。

- なお、販売・営業関連（Sales and Related）の比率が一定程度あるのは、主要4か国の1つであるスペインで宝くじの販売が視覚障害者団体の独占事業とされていることが有力な要因と考えられる。

■現在の視力での就労継続期間①

How long respondent worked with current vision	n	%
Less than two years	390	19.6
2-5 years	303	15.2
6-10 years	443	22.3
More than ten years	852	42.9
Total	1988	100

■現在の視力での就労継続期間②

- 現在の視力での就労継続期間は、10年以上（More than ten years）が４割を超えている。

※業務分担や合理的配慮の内容について適切な形が見つかれば、長期雇用が見込めるという状況を表しているのかもしれない。

※ここで「現在の視力での」とあることに注意したい。視力低下は離職や休職に繋がりやすいため、視力低下直後の人のみを対象とすると異なったデータとなることが予想される。

■使用デバイス①

Tools*	n (%)
Computer with speech output	206 (38.9)
Computer with screen magnification	246 (46.5)
Large monitor	213 (40.3)
Customized computer/desk workstation	99 (18.7)
Smartphone	429 (81.1)
Tablet	796 (32.8)
Reader apps	738 (30.4)
A CCTV (closed-circuit television) or video magnifier	275 (11.3)
A DAISY or Digital Accessible Information System	449 (18.5)
An audio book player	765 (31.5)
A refreshable braille display device	390 (16.1)
A talking watch	435 (17.9)
Other talking products (e.g., kitchen timer or alarm clock)	1087 (44.8)

Tools*	n (%)
Artificial vision products	122 (5.0)
Electronic note-taking device	356 (14.7)
Braille watch	303 (12.5)
Braille writer	415 (17.1)
Slate and Stylus	298 (12.3)
Sign language interpreters	20 (0.8)
Intervenors for the deafblind	20 (0.8)
Assistive listening device (hearing aid or FM system)	134 (5.5)
Special transportation system for people with disabilities	274 (11.3)
White cane	1291 (53.2)
Guide dog	290 (11.9)
Mobility aid such as a wheelchair, crutches, or walker	82 (3.4)
Low-tech vision devices (hand-held magnifier, other)	614 (25.3)
Other (please specify)	262 (10.8)

■使用デバイス②

- WBUの調査では、スマートフォンを利用している人の割合が8割を超えている。
  音声や画面拡大のパソコン＝「Computer with speech output」及び「Computer with screen magnification」が5割以下であることと比べると、スマートフォンの利用率はかなり高い。

- 「Braille watch」や「Braille writer」の利用率は低い。

  ※なお、スマートフォンは時計や録音機など様々な機能を併せ持つため、各機能専門のデバイスの利用率は低く、スマートフォンの利用率が高いという状況に繋がっていると考えられる。

仕事に関する肯定的・否定的コメント

- アンケートでは、自身の仕事について好ましいと思うこと（like）、好ましく思わないこと（dislike）を、自由記述で求めている。
- WBUの報告書では、それらをカテゴライズして整理している。
- 肯定的コメント・否定的コメントそれぞれの上位６つのカテゴリーを紹介する。

肯定的コメント①

- 雇用主、同僚など、一緒に働いている人に関すること

"I like my co-workers...they are also my friends."

"What I like: contact with members - contact with colleagues - supporting and helping each other among colleagues."

※このカテゴリには、クライアント、生徒、顧客に関する肯定的コメントも含まれている。チームの一員として働けることを誇りに思うとするコメントも多かった。

肯定的コメント②

- 十分な給与を受け取れること

"I like the security of collecting the payroll every month, including the extra payments when applicable by the company."

"I also enjoy my high salary and level of job security."

※なお、本調査では所得そのものを問う質問はなかった。所得に関しては、ネガティブ側面でも多く言及された（後述）。

肯定的コメント③

- 十分な（合理的）配慮を受けられること

"What I like a lot: the freedom to organize time slots in the work schedule, the personalization of activities as needed…, the choice of adaptations like reading completely in braille or abridged on paper or reading a digital document on a tablet or braille bloc-notes."

"I love my job, it's dynamic and changing. I have a supportive team and employer who try to make accommodations suited to my situation."

※情報アクセスに必要な機器に関すること、人的サポートに関することへの言及が多かくあった。

肯定的コメント④

- ポジティブな評価、平等な取り扱いを受けること

"I enjoy working as part of a multi-skilled team. I enjoy the variety of the work I do and feel respected in the workplace."

"I like that I can earn my living by myself without anyone's help. I feel validated and useful to society."

※社会や、同じ障害者への貢献を誇りとするコメントも多かった。

肯定的コメント⑤

- 働き方に柔軟性があること

"I like the flexibility of being able to choose my own hours and to work primarily, not exclusively, from home which means I don't have to deal with (the) sometimes difficult hassle of transportation."

"I like the flexibility of being able to partially work from home."

※在宅勤務を含めて、柔軟な働き方が認められていることを好ましく思うコメントが多かった。在宅を好む背景には、視覚障害者としての通勤のコストがある。

※柔軟性を好むコメントは、自営業の回答者からも多く寄せられた。

肯定的コメント⑥

- 知的挑戦：新たな知識を得て成長できること

"Like: learning more about my business by completing compulsory online CPD modules on an annual basis."

"What I like: the varied interactions and the intellectual enrichment - research, discovery of new areas - synthesis and structure of data - writing."

※仕事を通して新たな知識を得ること、それを他の障害者などに還元することを喜びとするコメントもあった。

否定的コメント①

- 移動の困難性

"The hardest part about working is often being able to find safe and reliable transportation to and from work, not the work itself."

"The way to my Office is sometimes difficult because of e-scooters and bicycles in the way."

※時間や労力の面での移動コストに関する言及が多かった。（車の運転ができないため）公共交通機関を使わなくてはならないことの負担感についての言及もあった。

否定的コメント②-1

- 仕事に関わるアクセシビリティ阻害要因
（ソフト・ハードのテクノロジーに関するものと、紙の印刷物に関するものが含まれる）

■ ソフト・ハードのテクノロジーに関するアクセシビリティ阻害要因

"The challenges are all around accessibility. The more I need to use a screen reader the more limited access becomes. Many websites are hard to navigate and seem to be using more imagery and animation without the support of audio descriptions. PDF downloads seem to be the norm which is infuriating. Why not just make the text available as webpages so that everyone can read it?"

※ウェブやファイルがアクセシブルでないこと、スクリーンリーダで使えないソフトウェアが多いことに関するコメントが多い。

否定的コメント②-2

■印刷物や手書きメモに関するアクセスの困難性

"Too many paper documents, the necessity of having those read to me."

"Like the work dislike that print on paper is small and difficult to read."

※紙の資料が読めない（読みにくい）のは視覚障害者としては当然のことだが、そこが現代でもバリアとなっている。

否定的コメント③

- 不十分または低い給与

"What I like least is the salary, I would like it to be greater."

※給与に関するコメントは肯定・否定の両側面で多かったが、肯定的なコメントの方が否定的なものより多かったという。

否定的コメント④

- 人々の（視覚）障害者に対する態度

"It especially bothers me when colleagues think that I cannot do this or that because of my lack of vision. I've had managers who have treated me differently than the fully sighted staff because of my vision issues. Then, when I point that out it's like beating my head against the wall, they don't get it."

※障害があるために正当に評価されない、正当に扱われないとする意見も多かった。

否定的コメント⑤

- 職場や業務への適応の苦労

"I like the sense of accomplishment in teaching, and the salary is good; but because of limited vision, I can't pay attention to the expressions and reactions of students in class."

"Hard to explain to employer how I do see."

※周囲に自分の状況を説明すること、理解を求めることの難しさも言及されていた。

※求められたタスクを達成することの困難さを強調する声もあった。（これらの意見と合理的配慮の不提供の関連性についての考察はなかった）

否定的コメント⑥

- 事務手続きやミーティング出席に関する負担

"I do not like the large bureaucracy and time I must allow for others to review work and make decisions."

"I don't like the reliance on screens and projectors in meetings as I can't read them and it's difficult to follow along."

※大量の資料を処理することの難しさを指摘するコメントが多かった。

※ミーティングについては、スライドやホワイトボードの情報を把握できないことの指摘があった。

まとめ-1

- WBUの調査によって明らかとなったこと

① 視覚障害者は、事務系をはじめパソコンを駆使する職種で多く働いている。そうした中で、アクセシビリティ阻害要因に関する否定的コメントが多いことは頷ける。

→パソコン操作に関する訓練・サポートは依然として重要である。

② 通勤に伴う移動を負担と考えるコメントが多かった。

- 都市部の居住者の比率が高かった
- テレワークを含めた柔軟な働き方を歓迎する声も多かった

→通勤コストは依然として高いことが分かった

※パソコン操作と歩行訓練の重要性は、国内のヒアリング調査（調査研究報告書No.149）でも強調されていた。

まとめ-2

③ アンケート協力者には高学歴の人、スマートフォンやパソコンを使いこなせる人が多かった。

- 電子データでの質問紙配布という方法の影響もある。
- それ以外の人々の就労状況の把握は課題である。

④ パソコン関連や移動以外でも、給与金額や同僚等の態度など、様々な課題があることが分かった

⑤ 日本をはじめとするマッサージ業従事者の多い国と、WBU調査の主要4か国との比較を多様な側面に注目して行うことは、有益と考えられる。